

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 53人

② 算数 53人

③ 理科 53人

5 留意事項

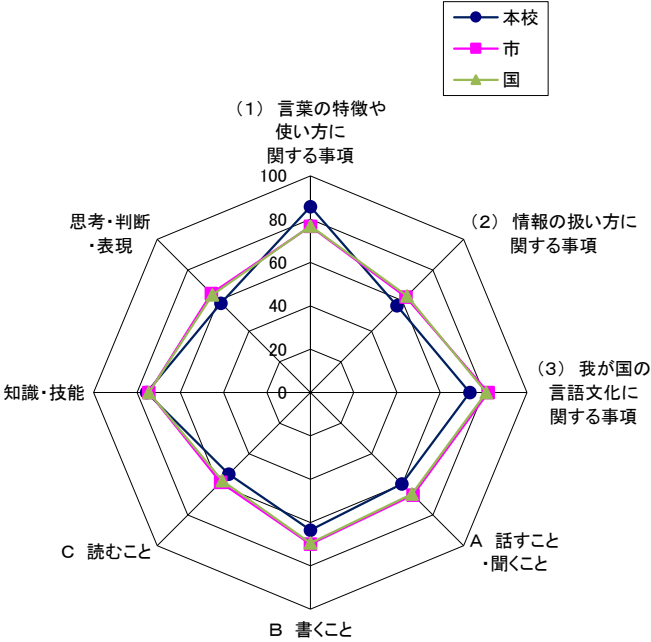
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	85.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	56.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.6	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	59.7	67.0	66.3
	B 書くこと	63.5	70.0	69.5
	C 読むこと	53.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	75.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	58.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

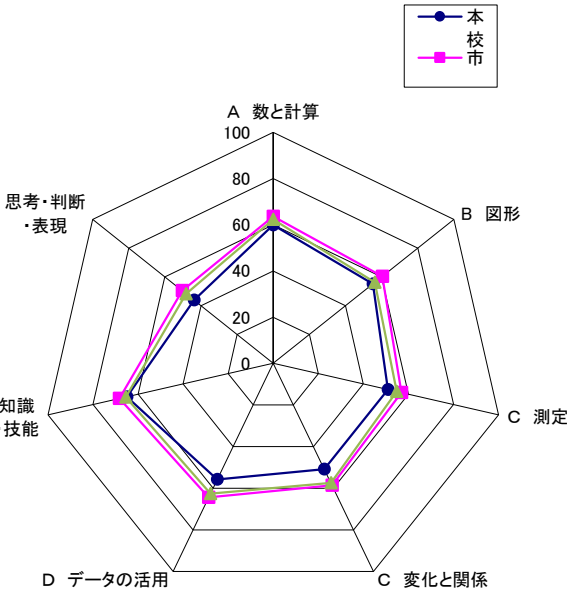
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は全国平均を上回っている。 ○漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が高く、国の正答率を上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・繰り返し漢字練習を行い定着を図った成果と考えられる。今後も繰り返し漢字練習を行い、ノートの記述の際には、正しい表記ができるよう指導を続けていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を捉える問題の正答率が低い。	・自分の考えを図や記号使って整理することを通して、情報や語句のつながりを意識しながら文を組み立て、筋道を立てて考えを述べられるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題の正答率が低い。	・機会を捉え、様々な言葉の変化や世代による言葉の違いについての話題に触れるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討する問題の正答率が低い。 ●話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題の正答率が低い。	・自分の考えを相手に伝える活動をする際には、伝える目的や内容を明確にし、そのために必要な情報を考え、整理する活動を重視していく。 ・話し合いの際には話し手の考えと比較しながら、自分の考えを整理・分類してまとめる活動を取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●図表などを用いて、書き表し方を工夫して書く問題の正答率が低い。 ●目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く問題の正答率が低く、国の平均を大きく下回っている。	・自分の考えを、より分かりやすく相手に伝えるためには、どのような図や表を用いればよいのかを考える機会を設け、自分の考えを図表等を用いて分かりやすく表現することができるようにする。 ・様々な場面において、書く活動を取り入れ、自分の考えを文章で明確に伝えられるようにしていく。 ・目的意識や相手意識を明確にした活動を設定し、自分の考えが相手に伝わるような書き表し方の工夫を取り入れて書くことができるようにする。また、書いた文章を互いに読み合うことで、様々な書き表し方の工夫に触れる機会を設け、表現の幅を広げていけるようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容をとらえる問題の正答率が低い。 ●事実や感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、要旨を把握する問題の正答率が低い。	・文章を読む際、時間的な順序や事柄の順序を丁寧に考えることで、大まかに内容を捉えられるようにする。 ・説明文の学習では、文章全体を「はじめ・なか・おわり」に分けたり、書き手の主張や具体例等が書かれている段落を表にまとめて整理したりすることで、文章全体の構成の理解を促し、書き手が最も伝えたいことを捉えることができるようにする。また、事実や感想、意見の違いを、叙述を基に捉えることができるよう、指導していく。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.9	63.6	62.3
	B 図形	55.2	60.4	56.2
	C 測定	50.9	56.9	54.8
	C 変化と関係	50.9	58.6	57.5
	D データの活用	55.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	65.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	43.9	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

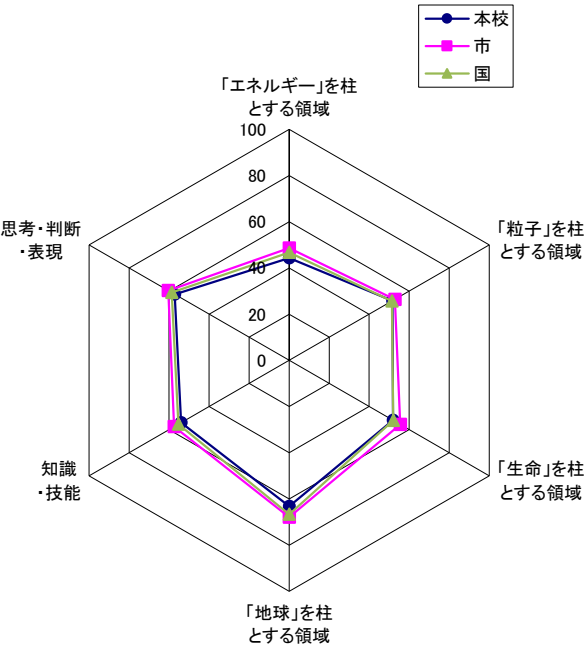
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○異分母の分数の加法の計算の正答率が高い。 ●分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題の正答率が低い。また、無回答率が高い。	・朝の学習を活用しながら、計算の反復学習に取り組んできた成果が表れている。計算練習については、今後も朝の学習を活用した反復学習を続けることで、計算力の向上を目指す。 ・問題を場面絵や数直線などの図で示す等しながら、問題場面を把握するようにし、問題の数量関係を正しく捉えられるようにしていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○方眼上の五つの図形の中から台形を選ぶ問題の正答率は、国の平均を上回っている。 ●五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題の正答率が低い。	・朝の学習等において、これまでに学習した図形の面積の求め方を復習したり、求め方を式や言葉で表現する練習をしたりする活動を取り入れる。 ・普段の授業において、考えやその根拠を説明し合う場を設定しているが、伝えたいことを明確にできているか等の視点を示すことで、話し合い活動の充実を図る。
C 測定	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○はかりの目盛りを読む問題の正答率は、市や県の平均を上回っている。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題の正答率が低い。	・伴って変わる2つの量について、一方が変わると他方がどう変わるか等、表やグラフを用いて2つの量の関係を整理していくことで、2つの量の変化の規則性を見だし、よりよく問題を解けるようにしていく。また、表やグラフから分かることを、自分の言葉で説明する活動の充実を図る。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●「10%増量」の意味を解釈し「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す問題の正答率が低く、市や県の平均を下回っている。	・割合の考え方と百分率の考え方が結びついていないことが考えられる。これまでの学習を復習し、理解の定着を図る。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●目的に応じて適切なグラフを選択し、量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低い。 ●簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶ問題の正答率は、国の平均を下回っている。	・算数に限らず、総合や社会科等、様々な教科において、目的に合ったグラフの活用の仕方に触れたり、グラフからデータを読み取ったりする活動を位置付ける。また、グラフから読み取ったことを説明し合う活動の充実を図る。 ・文章で示された情報を的確に読み取ることができていないことが考えられる。算数の学習に留まらず、文章の要点をまとめる活動を意図的に設けることで、文章を読むことへの抵抗感を少なくし、必要な情報を読み取れるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.3	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	51.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	51.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	63.2	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.0	57.5	55.3
	思考・判断・表現	57.2	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を下回っている。 ○電気の回路のつくり方について、実験の方法を予想し、表現する問題の正答率は、国の平均を上回っている。 ●電流がつくる磁力について、電磁石の強さと巻き数の数の関係を問う問題の正答率は、国の正答率を下回っている。 ●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する問題の正答率が低く、知識の定着に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「電気のはたらき」や「電流と電磁石」の単元を中心に、実験で分かったことを知識として確実に定着させることができるように指導していく。そのために、実験の考察を個人からグループ、全体へと広げながら学習させ、大切な用語や確実に押さえたい知識を全体で共有できるようにしていく。 ・振り返り問題を活用し、学習したことが知識として定着するよう指導する。 ・単元終末にノートまとめに取り組ませ、学習内容の定着をはかる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国平均とほぼ同じである。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する問題の正答率は、国の平均を上回っている。 ●水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題の正答率は、国の正答率を下回っており、課題が見られる。 ●「水は温まると体積が増える」という知識を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は、国の正答率を下回っており、課題が見られる。	・実験を通して、温度によって変わる水の変化の様子を視覚的に確認することができるようにする。また、学んだことを図に整理したり、自然の事物や現象と関連付けたりすることで、理解を深めていけるようにする。 ・温度による水の体積の変化について、授業で学習した内容を、他の学習や児童の生活体験に関連付けて捉えさせることで、実感を伴った理解につなげていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ●ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した観察、実験の方法を計画することができるかどうかをみる問題の正答率は、国の正答率を下回っており、課題が見られる。 ●レタスの種子の発芽条件について、既習の種子の発芽条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することに課題が見られる。	・条件制御をして調べる理由について丁寧に確認することで、実験の目的を正しく捉えられるようにする。調べたい発芽の条件について、変える条件と変えない条件とを整理しながら実験の方法を考えることができるように促していく。 ・既習内容をもとに、学習を広げ応用力を養う活動を単元終盤で取り入れていくことで、実験や観察を通して得た知識を活用する力を育てていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、平均を下回っている。 ○氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかを見る問題の正答率は国の平均を上回っている。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する問題の正答率が低く、国の平均を大きく下回っている。また、無回答率も高い。	・理由を説明する等の表現力に課題があるため、日ごろから実験の予想や考察を自分の言葉で記述し、表現する活動を取り入れていく。また、児童の実態に応じて、予想や考察をまとめるためのキーワードを示すことで、書くことへの抵抗を少なくすることができるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」についての肯定的割合は91.4%であった。今後も問題を振り返る時間やテスト直しの時間をしっかり設け、学習内容の定着が図れるように取り組んでいきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いについての肯定的割合は100%であった。学校運営の今年の重点目標である児童一人一人のがんばりやよさの見取り・共有や活動の場の意図的な設定などによる、認め励ます教育の一層の推進を図った効果であると考えられる。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の問いについての肯定的割合は62%であり、十分とは言えない状況である。自分で立てた見通しに対する振り返りを文章で書かせる活動や自らの学習の調整を図る場の設定を行い、児童が主体的に学習に取り組む態度を育成できるようにしたい。

●「国語の勉強は好きですか」の問いについての肯定的割合が34.4%であり、十分とは言えない状況である。児童の知的好奇心をゆさぶる課題提示の仕方の工夫を図りながら、語彙力や読解力を高められるようにしたい。

●算数と理科において、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的割合が全国平均を下回っており、学習の必要性についての意識が低いと考えられる。特に理科では大きく下回る結果となった。学習意欲が高まるように、日常生活の中において、学習した内容と関連した場面や実際に活用している場面を取り上げることで、学習と生活との具体的な関連を意識付けていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的な知識・技能の 確実な定着	・朝の学習にT・T体制を取り入れたり、習熟別プリントに取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・家庭学習強化週間を設け、めあてを持って学習に取り組むことで、学習習慣の定着を図る。	・漢字の読み書きや基本的な計算について、市や県の平均を上回るものが増えてきた。 ・家庭学習において、宿題への意識は高いが、自主学習への取組や、学習時間の十分な確保に課題が見られる。
課題設定の工夫による 主体的に学ぶ力の向上	・児童にとって解決する価値のある課題設定をすることで、学習意欲の向上を図る。 ・実生活や実社会に関連した課題設定の工夫をすることで、学びを自分事として捉えることができるようにする。	・特に理科において、勉強が好きと回答する児童の肯定的回答割合が低く、課題が見られる。 ・授業で学んだことを、実生活に結び付けて考えたり、学習したことを普段の生活の中で活用したりすることに課題が見られる。
互いの情報や考えを 可視化する活動の工夫による 学びの充実	・自分の考えを簡潔な文章でまとめる時間や、話し合った内容を簡潔にまとめる時間を設定する。 ・児童自身の言葉で論述しながら振り返る時間を設ける。	・自分の考えを文章にまとめて書くことが難しいと感じており、書くことに対して苦手意識を持っている児童が多い。記述式の問題は正答率が低く、無回答率も国の平均を上回っているものが多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
読解力に課題があり、問題文を読むことに抵抗を感じている児童や、問題文を正しく読み取ることが難しい児童が見られる。	文章を読む機会を積極的に設け、読むことへの苦手意識や抵抗感を払拭する。	・授業の中で、教科書に書かれていることを要約したり、分かりやすく説明したりする活動を意図的に設ける。 ・国語科の授業を中心に、図書資料を活用した授業を行ったり、読書週間を効果的に活用したりすることで、本に触れる機会を意図的に設け、読書活動を推奨する。
書くことに苦手意識を感じている児童が多く、自分の考えを述べたり、理由を説明したりする問題の正答率が低く、無回答率も高い。	文章を書く機会を積極的に設け、書くことへの苦手意識や抵抗感を払拭する。	・朝の学習で短文作文に取り組んだり、授業の振り返りを自分の言葉で書いたりすることで、短い文章から抵抗なく書けるようにしていく。 ・目的意識や相手意識を明確にした課題を設定することで、書くことへの意欲付けを図る。 ・授業の中で、自力解決の時間を確保したり、個に応じた支援を行ったりし、効果的に話し合い活動ができるようにする。また、なぜそう考えたのか問い返すなどしながら、理由を説明できるようにする。